

I. わが国のがん医療においてピア・サポートを広く推進するための提言

ピア・サポートに関する現状調査並びにモデル研修の実施、各都道府県との意見交換で得た知見をもとに、がん医療におけるピア・サポートを推進し、がん患者・家族が安心して暮らせる地域共生社会を実現するために、次期のがん対策推進基本計画の検討に際して以下を提言する。

1. ピア・サポートの普及・啓発の推進

- (1) 国はピア・サポートの認知が途上である結果を確認した第3期がん対策推進基本計画の中間評価を踏まえ、ピア・サポートに関する市民や行政、医療機関への啓発を、一層強化する必要がある。
- (2) 国はピア・サポートに関する改訂された研修プログラム等の普及を図るとともに、都道府県によるそれに基づくピア・サポーターの養成、研修修了者の活用、活動の維持、質の向上に向けた支援を継続する必要がある。特に地域統括相談支援センターの機能を見直し、再整備と設置を促進することが望まれる。
- (3) 各都道府県は、がん診療連携拠点病院等においてピア・サポートの活動を推進するために、改訂した研修プログラムに沿った研修を実施しピア・サポーターを養成すると共に、継続的な研修を行う教育体制や研修修了者を活用するマネジメント体制を併せて整備することが重要である。体制の実現に際しては、ピア・サポートの教育研修やマネジメントを担当する専属の者を置くことが望ましい。健康対策推進事業にある地域統括相談支援センターの活用や患者団体等との連携が解決策になりうる。
- (4) ピア・サポートの運用には行政と医療機関との密な連携が欠かせない。各都道府県は、都道府県がん診療連携協議会の協力のもと、ピア・サポートの養成や継続研修の実施について、目標を定め、進捗を評価して継続的に改善を進めることが重要である。そのためには、該当都道府県のがん診療連携協議会において、ピアサポート支援を担当する部会を明確にすることが重要である。一般論として、内容の関連する相談支援部会や緩和ケア部会が所掌することが親和性があると考ええる。
- (5) がん診療連携拠点病院等は、施設内においてピア・サポートを推進する部署・担当者を明確に定める必要がある。がん相談支援センターが、ピア・サポートとの連携を担うことが期待される場合には、一定の権限を与えると同時に、支援を強化することが望まれる。
- (6) 教育・研修を進めるにあたっては、国や都道府県、関連学会、患者団体等は、がん治療や精神心理的支援、相談支援に携わる医療従事者と連携し、県や地方ブロック単位で支援体制を構築し、人材育成を図ることが望まれる。
- (7) 国や都道府県、関連学会、患者団体等は、医療機関外で行われるピア・サポートにおいても、ピア・サポートに関して認識を共有するために、市民教育を進めることが望まれる。

2. ピア・サポートを活用したセルフヘルプグループやサポートグループの推進

- (1) 国はがん診療連携拠点病院等の整備に関する指針において、拠点病院内での患者家族支援の基盤の一つとしてピア・サポートを活用したセルフヘルプグループやサポートグループ等の配置を明確にするなど、推進に向けた基盤の整備を進めることが重要である。
- (2) 各都道府県は、がん診療連携拠点病院で開催されているピア・サポートやセルフヘルプグループ、サポートグループに関する情報を収集し、ポータルサイト等を通じて発信するなど、がん患者・家族が希望する支援にたどり着けるよう取り組むことが重要である。
- (3) がん診療連携拠点病院等は、がんサロンにおいて、改訂された研修プログラムの修了者をしたグループ活動（セルフヘルプグループ、サポートグループ）を実施するなど、積極的な活用を進めることが重要である。

3. コロナ禍でのピア・サポート体制の確保

- (1) 新型コロナウイルス感染症流行が長期化するなかで、がん患者・家族への心理社会的な負担は大きく増大している。都道府県やがん診療連携拠点病院等は、感染予防の観点だけではなく、患者・家族を包括的に支援する立場から、心理社会的支援を積極的に進めることが重要である。
- (2) オンラインでの活動では、情緒的交流の限界や技術的な負担、個人情報管理など、対面形式にはない課題がある一方、物理的な距離にとらわれない利点がある。一部の都道府県やがん診療連携拠点病院等においては、対面形式のピア・サポートに加えて、オンラインでの活動・養成に取り組んでいる。それぞれの長所を活かして、複数の支援の場を用意することが重要である。
- (3) 今後起こり得るパンデミックや災害の際も心理社会的支援の場が必要であることを認識し、活動ができるように準備しておくことが重要である。

4. ピア・サポートの効果検証の検討

- (1) 第三期がん対策推進基本計画において個別目標に掲げられている通り、ピア・サポートの「効果検証」についても検討することが望まれる。これに先立ち、多義的な意義をもつピア・サポート介入の効果としてどのようなアウトカムが妥当であるかを検証する必要がある。